

店頭から  
「こんにちは」

第86回

増えているのは虐待？ それとも事故？  
介護職の人がラクにと祈る日々

団塊の世代の人たちが、介護施設を利用する機会が増加を。  
施設を利用したいものの、なかなかできない中、さまざまな問題も――。

## 何ごともなかったかの如く…

ようやく順番が回ってきて、運よく入所できた施設内で、事件が発生したと聴きました。

寝たきりで入所していた方が、入浴後、容体が急に悪化して病院へ搬送され、両足の骨と腕を骨折。間もなく、出血性ショックで亡くなられたそうです。

施設内で虐待があったようで、犯人は若い女性介護職員とのこと。施設を利用している人たち、および面会に訪れている家族は、何も疑うことなく、犯人に何度も会っていたはずです。

親を人質にとられているようなものですから、強いことはいえないものの、施設に自分の大切な家族を、今後も預けておけるのでしょうか…。

担当のケアマネジャーは、「まだ取り調べ中なので」と、状況を教えてくれないといいます。周囲には、早く違う施設に移してもらえないかと、焦りも見え始めているようでした。

幸い、入所している人たちは、

そのことも知らずにいるようです。逆に、分かっていたら、不安になり、どんなことになってしまうか、分かりません。

利用者の家族が心配になり、次々と施設を訪れていきます。

報道陣がいっぱい、中に入れてもらえないのかと思っていたら、何ごともなかったかのように静かだったようです。

受付で記帳していると、「この度の報道では、ご迷惑をおかけしました」と申しわけなさそうに頭を下げたとも。

お世話になっているユニットに行けば、そこでも何ごともなかったかのように、にこやかに時間が過ぎていくばかり――。

## 介護保険の改定を

施設内での仕事を見ていると、肉体的にも、精神的にも、重労働なことはお分かりでしょう。

職員が十分な人数、配置されているところは、1人あたりの仕事量は減ります。一方、そうでないところは忙しすぎて、目が回ることでしょう。

そばをとおるたびに、「ごはん」とか、「おしっこ」とかいわれても、いちいち返事はできないものです。つい先ほど、トイレの介助をしたのに、またトイレといわれたら、「先ほど行ったばかりでしょ」といわれかねません。

疲労が積み重なると、ついイライラとして…。最近、各地で起きている施設での虐待は、あまりに数が多いからか、ニュースにもされなくなってきました。

ますます利用者が多くなるけれど、介護職はキツいと離職する人も多い職種が現実でもあります。

介護職の人が少しでもラクになれるように、介護保険の改定が行われることを祈るばかりです。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生



プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「寒い時季です。体調にはご留意を」